

## 朝の児童玄関の様子から パート2…

副校長 細井 宏一



昨年度の学校通信でも、私は同様のタイトルで、1台のサーモグラフィカメラの前に並び児童の様子について書いた。今年も、朝の児童玄関で素晴らしい児童の姿に出会ったので紹介しようと思う。

左の写真は、今の児童玄関である。昨年度と違うのは、手指消毒をすること、扇風機、そしてサーモグラフィカメラが2台になったことである。カメラが2台となり、流れはとてもスムーズになった。

2学期から手指消毒を始めたが、最初の頃は消毒液入りプッシュボトルを机の上に置いておき、子どもが自分でプッシュするようにしていた。ところがしばらく様子を見てみると、やりにくそうにする姿があった。荷物を手に持っていて、押しにくいのである。

そこで私はある日から、児童が手を出したら私がプッシュをするようにした。少し楽しくしようと、「今日から自動になりました。手を出してください」と声をかけ、手を出してくれると「ピッ！」とプッシュしてあげるのである。様々な児童の反応があり面白かった。「ありがとうございます」と言ってくれる子、模範である。低学年の子は「うふふ」と笑ってくれたり、「本当だ!」と言ってくれたり…。中には「自動はうそだよ。本当は先生が押しているんだね」と言われることも。「まあ、そうなんだけど、こうすると楽しいでしょ」と私は返答。もう少し大きくなれば、わかる時がくるだろう。そのような中で、高学年の子はもう冗談も通じるので、「すげー、最新式だ!」などと、合わせて嬉しいことを言ってくれる子もいた。実に楽しい。



その折、毎朝児童玄関で挨拶運動と清掃をしてくれている運営委員会のある児童が、「先生、変わりましたか」と声をかけてくれた。嬉しくなった。お願いすることにした。その児童は「おはようございます」と声をかけながら1プッシュ。すると児童同士の挨拶が始まり、更には「〇〇さんがんばってね」と声を掛けられ「ありがとう」と返事をするといった関わり合う姿も見られた。ある時は低学年の子が「私も…」と手伝ってくれた。きれいな言葉がどんどん広がっている。



しばらく日がたったある時、更に素晴らしい姿に出会った。変わってくれた運営委員会の児童が、プッシュボトルを机の上から自分の手に持ったのである。そして一人一人に挨拶しながら腰を少しかがめて丁寧に優しくプッシュ。すると、隣にいたもう一人の運営委員もまねをするようになった。「どうして、手に持ってやろうと思ったの?」と尋ねると、「荷物を持っていて、手を差し出すのもたいへんそうな子がいたから」と応えてくれた。相手のことを考えて、よりよい方法を自ら進んで行う姿、そしてそのよい姿が自然に広がっている様子に、とても感動した。

菊の園には、このような素晴らしい行動を自然にできる子どもたちがいる。少し大げさかもしれないが、このようなよい姿が、菊の園、日本中、世界中と広がってほしいと願う。

